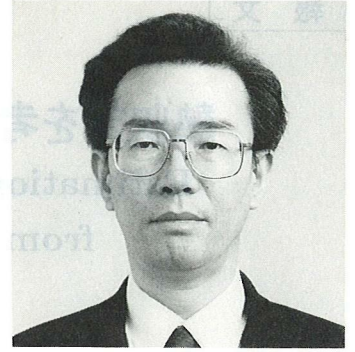


ガイア仮説

能 登 繁 幸*



数年前になると思うが、NASAの元科学者ジェームス・ラブロックが「ガイア仮説」なるものを提唱した。地球そのものを一つの生命体「ガイア」としてみることができる、というものだ。ガイアはギリシャ神話の大地の女神。タルタロス、エロスとともに混沌の神カオスから生まれた。地球が混沌から生まれたことは科学が証明している。

生命体というものは、それぞれの部位が無駄なく配置されていて、効率的に存命効果を発揮する。地球という生命体では、大地と海洋の比率、砂漠と緑地のバランス、雨や風や日照、温度などの自然環境に無駄がなく、生物の種類と数、無機物・鉱物の種類と埋蔵量にも無駄がない。それぞれの物体にはそれぞれの役割があり、意味もなく存在するものはない。すなわち、世のすべての物体は適正な数量で存在し、適正な役割がある。

大量に存在するものは大量に消費される役割を持つ。例えば、石炭、石油、LNGなどの化石燃料が大量に存在して文明を高度化させ、土、セメント、アスファルトは地球上に大量にあって社会基盤整備に役立っている。(セメント単価が安いとセメント業界は嘆くが、大量に消費される役割だから仕方がないのだ。)

地球に存在する物体に無駄がない。例を示せば、窒素族元素の一つ、ヒ素である。錬金術の盛んな16世紀には、銅にヒ素を塗るとあたかも銀のようにに見えることから大事にされたが、農薬に使われてヒ素中毒が顕在化して以来途端に村八分にあった。それが今、コンピュータなどパルス技術に使う高速のデバイス(素子)として、ガリウム・ヒ素半導体が注目を浴び、ヒ素の重要性が再認識された。デンマークでは、豚の脳下垂体からホルモン、脾臓からはインシュリンを抽出し、毛は歯ブラシ、皮は靴、肉はハム・ソーセージ、血液は化粧品と、豚を完璧なまでに利用している(北大農学部黒柳俊雄教授、貿易摩擦と日本農業、62年度土木学会全国大会講演会より)。これも無駄のない例である。

地球上のあらゆるものが一定のバランスの上であり、このバランスが崩れかかると保身本能によってバランスが保たれる。大森林を食い尽くす前に恐竜が絶滅し、あまりにも大量に発生したネズミは海に向かって走り込み、集団自殺する。過去、人口が増えるのと戦争が勃発し、多くの人命が失われた。ところが今、大きな戦争は生じ得ない。文明国では医療が発達して病気では死なない。途上国に飢餓が発生すると世界中が善意の手をさしのべて救済する。なかなか人が死なない世界になりつつある。

しかし、生き物に限らず、ほとんどすべてのモノは、ひずみが溜まるとどこかで破壊が始まる。化石燃料の加速度的な使用は、地球温暖化、酸性雨、オゾン破壊を招き、人口の増加は各種の社会問題を発生させた。バランスが崩れつつある。エイズが蔓延し、エボラ出血熱が発生し、最近やたらと地震が多いのも、ガイアの保身本能なのかも知れない。いや、女神ガイアは多くの怪物を生んだとされている。近頃各所で生ずる問題とは、これらの怪物、ガイアの子供達なのかも知れない。

さて、世の中に存在する物体には無駄がない。本来持つべき役割・機能を知りさえすれば、完璧に有効利用することができる。適正使用量を把握できれば地球の命は無限になる。今、無駄・無益と言われているものがやがて有益に変わるときがくる。どんなモノでも必ず必要になるときがくる。必ず何かの役に立つはずだと信じて、役に立たないと言われているモノを研究してみてもどうだろうか。多分、それこそ無駄と言われるだろうが。

…と、この文章を読みながら、そこかしこでその通りだと思ふあなたは危ない。なぜなら、この文章は各所に不当な導入示唆を入れ、読者を強引に納得させる仕組みをとっているからだ。くれぐれもだまされないように。ところで、相当昔に盲腸を切り取ったが、あれてほんとに無駄なものなのだろうか。

*構造部長